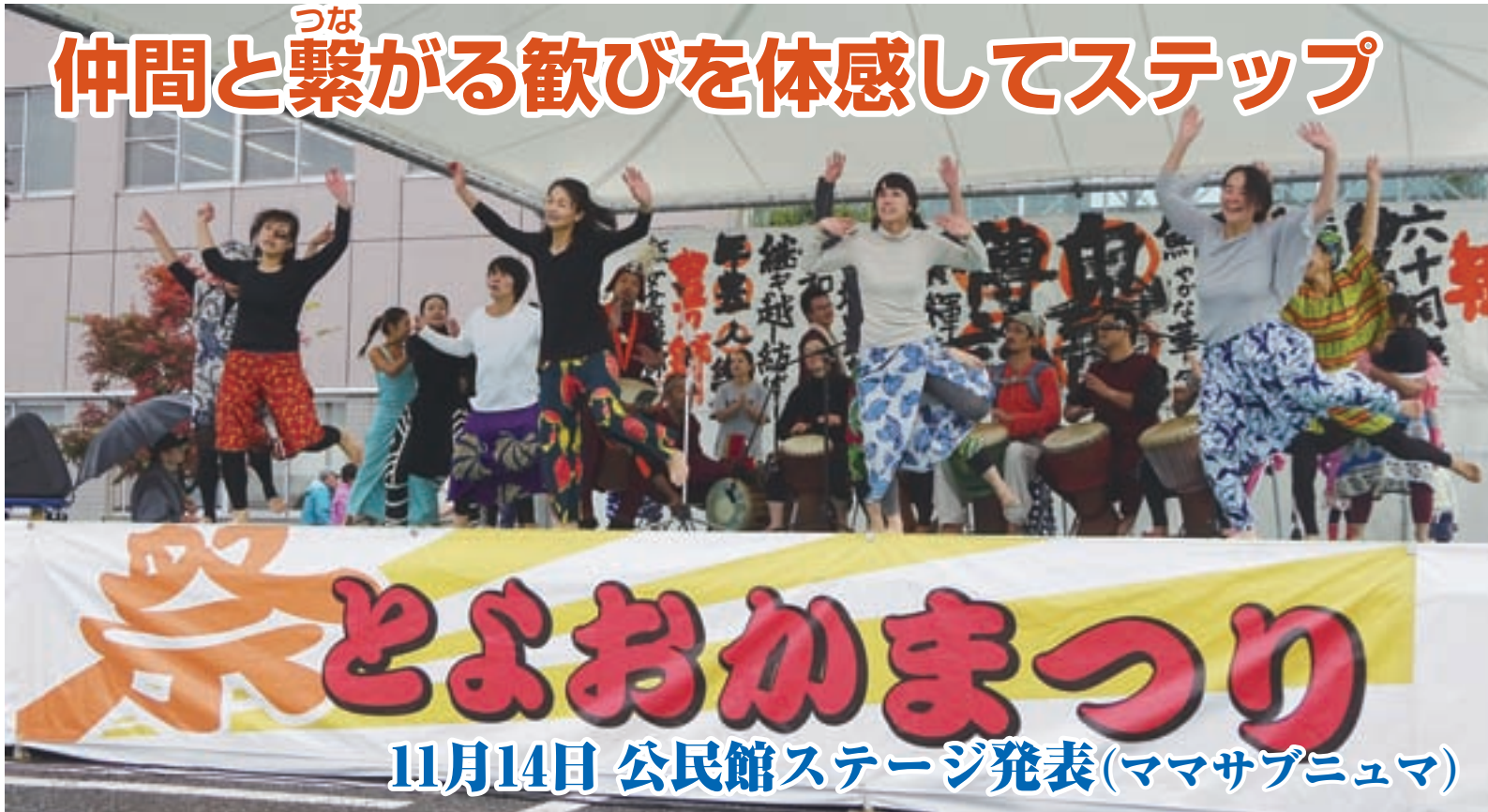


# 仲間と繋がる喜びを体感してステップ



第 658 号  
 発行人 ● 豊丘村 公民館 唐澤克己  
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村 公民館報 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (12月1日現在 ※外国人を含む)

男	3,380人
女	3,484人
総人口	6,864人
世帯数	2,117戸

## 村制60周年記念 とよおかまつり盛大に開催

### 雨をも吹き飛ばすパワー全開

とよおかまつりが十一月十四・十五日に開催され、公民館ステージ発表には十七グループが出演した。また、同月八日から交流学习センターで開かれた文化祭作品には三十四団体が出席し、多くの来館者で賑わった。

#### 公民館 ステージ発表 笑顔の種時き

本村 大津陽子

こんにちは！ママサブニューマです。今年もとよおかまつりステージでアフリカンダンスと太鼓の演奏をさせて頂きました。サブニューマとは西アフリカ・マリンケ語で「素敵な出会い」という意味です。私達にダンスや太鼓を教えてくれる先

生は中川村在住のたけちゃん&さやかちゃんご夫妻です。三人のお子さん達を育てながら、全国各地に笑顔の種時きをしています。ご夫妻の作る空間はとても温かい雰囲気になっていて、皆自然と笑顔になってしまいます。

只今、会員大募集中です。興味のある方は、ぜひ気軽に遊びに来て下さい。初回体験無料です。子連れや單身、様々な人が集まり楽しくダンス練習しています。とよおかまつり、ママサブは村外の人が多くいますが、いつも温かく迎えて下さり有り難うございます。今後とも宜しくお願いします！！



#### 文化祭作品展

#### 制作・創作が無限の蘭クワント

柿外土 池野充子

蘭クラフトは本来、美しい生糸を繅るために取り除かれたくす繭を使い、何層にもなる繭を一枚一枚剥いで形にしていきます。作品の「春の花をカゴに集めて」は華やく春を表現したいと思ひ作り出した。「庭に咲く小さな花たち」は大きな物を作る途中で悩んでしまい、息抜きに作りましたが、でもそんな作品が一番気に入っています。「ボールクエ」は初めてブーケを作った時を思い出し、今ふうの



真綿の風合いと温もりが来館者を癒やした

ボールクエにしてみました。今回、文化祭で初めて蘭クラフトを知った方もいると思います。私は植物を作るのが好きですが、動物や風景等色々な物を繭で表現することが出来ます。この中で繭の魅力を充分に伝える事はできませんが、いつか皆さんに蘭クラフトの楽しさを知ってもらえる機会があれば嬉しいと思っています。

## 第二十八回豊丘村駅伝大会 三十三チームが襷を胸に力走

### 中学校から十五チーム・仮装は二チーム

#### シヨッカーに仮装した快男子たち

地蔵道 中川浩二

十一月二十三日は、心配された雨も降らず、素晴らしい大会になりました。私達のチーム「無類」は二十回大会から駅伝に参加しています。もともと、同世代で作ったソフトボールチームです。「無類」とは、一人一人が無類の何々好き、と言いついていた事から「無類」というチーム名にしました。生まれ育った豊丘村が大好

きな私達は、駅伝にも参加しようと考えて一致団結しました。そこで、少しでも大会を盛り上げようと私達なりに考えたのが、「シヨッカー」です。イメージとして見た目は悪役ですが、中身は優しいお兄ちゃん達です。そして今回、村制六十周年という事もあり、天恵製菓さんからもご協力頂き、沿道で応援していただける方々にお菓子を配って走ろうと皆で決めました。ありがとうございました。これから私達は、体力がある限り

駅伝大会に参加したいと思っております。また、シヨッカーに対抗するチームも出て来られる事を期待しています。今後も「無類」を宜しくお願い致します。  
無類一同

**仲間と絆を深めた駅伝**  
 豊中一年バレー部 酒井日菜里  
 平成二十七年、豊丘村駅伝大会出場チームの約半数は中学生でしたが、その中で、私達「豊丘中一年バレー部」は女子の部への参



特別賞を受賞した「無類」

#### 襷を繋ぎ喜び共有

豊中サッカー部A 吉川 豪

加をさせて頂きました。走ってみて、「苦しい」「止まってしまう」と思った人は少なくないと思います。しかし襷を全力で繋いだことで、仲間との絆も一層深まったと感じています。また、体力づくりの良い機会にもなりました。来年には更なる向上を目指したいです。

今回の駅伝での経験を夏の中学生連でも生かし、南信大会に出場できるよう頑張りたいです。

駅伝大会に参加させて頂いたことがとても嬉しかったです。僕が参加してみたいと思ったことはチーム全員で協力して一本の襷を繋ぐことの大切さです。一人ではなく複数の人数でやることで、より楽しくなると思うし、喜びも分かち合うことができると思います。

今回の駅伝での経験を夏の中学生連でも生かし、南信大会に出場できるよう頑張りたいです。

### 段丘

急に寒くなりもう気づいたら十二月。二〇一五年も残り一か月となりました。私はこの月になるとふと「この一年間どうだったかな」と振り返りをします。みなさん二〇一五年はどうだったでしょうか。さて、一年の間に大きなニュースがいくつも流れましたが、私が印象に残っているニュースは、イスラム国日本人拘束事件、そして十一月に起きたパリでの多発テロなどといったテロ事件が多く流れ、世の中を混乱させたのはではないかと思ひます。

こういった大きなニュースは、何かしら会話のネタになり、ニュースを見なくても耳に入ってきます。私自身は毎日ニュースを見ていない、世の中に何が起きているのか、何が問題視されているのかについていけないことがあります。

ニュース以前にテレビを見ない人が増えているそうです。今ではインターネットで情報を得ることが出来ます。また、SNSといった常に人と繋がる環境があることにより、色々な情報から人の感情・様子まで理解できるツールがあるのです。

情報を簡単に得ることができる便利な時代。しかし、その情報が完全に正しいのか、どこまで正しいのか、自分で判断して見極められる力が求められる時代。それを考えると間違った情報を信じるより、新聞・テレビニュースを見て正しい情報を理解したいと感じる日々です。  
(熊谷由紀乃)



# 戦争を語り継ぐことが平和の創造に

## 12月20日、「胡桃澤盛日記」完結記念会

胡桃澤盛日記  
刊行会代表  
北村 田中雅孝

「胡桃澤盛日記」完結記念会を「胡桃澤盛日記」刊行会の主催、飯田市歴史研究所の共催、豊丘村、豊丘史学会の後援で、九月二十日に豊丘村交流学習センターゆめあるにて開催しました。

胡桃澤盛（一九〇五—一九四六）は旧河野村の生まれで、一九二〇年代の青年期には大正デモクラシーの先進地であった下伊那地方の青年運動で村のリーダー層として活動しました。一九三〇年代には昭和恐慌により大打撃を受けた村の経

済再生に苦闘し、やがて河野村の村長となって戦時体制を支え、太平洋戦争期には満洲への分村移民を実施しますが、分村移民に参加した人々の多くが集団自決で犠牲となり、盛は戦後自ら命を絶ちました。

盛の青年期から死の直前までの日記の刊行事業は、二〇一三年末に全六巻で完結し、今年八月には別巻『「胡桃澤盛日記」の周辺』を刊行しました。これにより刊行事業が終了したことを記念して、記念会をパネルディスカッションとして、読者や地域の皆さんと「日記」について語りあうというのを目的にして開催しました。当日は二一〇名余の皆さんの参加を得

て、盛会となりました。東京大学大学院教授の加藤陽子さんが「地域に生きる人々の持つ力―戦後を遠く離れて」と題して基調講演を行いました。

自然の中で人間らしい豊かな思索が許される存在として農に生き、トルストイ全集などを読みふける文学青年としての生活をおくる時代、この時代は読者として日記を読むのが楽しく、「地域に生きる人々の力」を実感することができるといっても過言ではありません。昭和恐慌と満州事変のもとでの自己意識の変容過程を経て、戦時下の農村指導者となっていく時代。戦後期の戦後処理と供出体制のなかで渡満した村人の状況を心配しつつ、農業と読書に回帰し、家族との生活にも心を配る時代。このように村に生きた

れた支配体制のもとで、農村からの人的、物的な収奪を遂行するという誰も果たしえない政治課題が農村の政治家としての村長には要求されたのであり、そうした戦争の時代の「悲劇性」が『盛日記』には記されている。「戦後を遠く離れた」今日の時代状況のなかで、戦争の歴史を私たちが読みとり、伝えていくことが、平和創造につながっていく力になると提起しました。

パネルディスカッションは、山口大学の池田勇太さんをコーディネーターとして進めました。長野高校の小川幸司さんは『盛日記』を対象に世界的視野と結び付けて地域史を教材化する授業モデルを提案し、「太平洋戦争を盛はなぜ推進したのか」、「なぜ満州開拓を推進したのか」、「どのよう戦争責任と向きあったのか」という歴史的問題の問いかけを深め、過去に生きた人間の「いのち」の軌跡に向き合うことで、「問いの連鎖を」行えるような歴史意識を育む歴史教育の課題を提起しました。

豊丘村教育長の寺沢宜勝さんは胡桃澤家の近隣の旧橋本屋の生まれで、村落の人々の生活史が活写され、自然との関りが文学抒情に満ちた文章で叙述されています。『盛日記』の魅力を感じました。盛の末娘の胡桃澤

美智子さんは『盛日記』をとおして父親像を回想し、地域の人々の結びつきや、女性の視点から家族や子育てへの関心も語りました。フロアからは、地域の人口が減少し、「地方消滅ともいわれる時代の地域課題や安保関連法をめぐって、戦争の時代と同じ発想が再び繰り返されているのではな

いか」という意見。戦争に反対できなかったのは組織の論理にとらわれ、個人の立場から意見表明することができなかったからだが、現在は個人として考え行動できる人が地域の教育のなかで育っているかという心もとない、『盛日記』を読むこ

とで考えていきたいという意見。高校生は歴史をどのように学んで、考えているのかと、教育に地域の将来への希望をこめた意見などが出されました。まさに『日記』を我がこととして読む意見交流の場になりました。

刊行会の今後の活動は『盛日記』の販売事業のみとなりますが、飯田市歴史研究所の近現代史ゼミでは『盛日記』を読む企画を継続していきます。豊丘村の皆様の参加も期待したいと思います。

また、豊丘村では豊丘史学会の活動として、『豊丘風土記』の編纂が営々として継続してきました。そのなかには多くの個人史の記憶が収録されており、誇るべき地域の歴史遺産といえます。私は『盛日記』の刊行により、大正・昭和時代を村に生きた人々の日常生活を記した「日記」も貴重な歴史資料となることが提起できたと考えます。村役場の行政文書をはじめ、地域自治組織等の公文書、さらには個人の農業記録、日誌、家計簿・写真なども貴重な歴史資料として、地域の個性を育む文化創造のための資源となることでしょうか。これを機に、豊丘村においても近現代の文書保存の取り組みを一層進めたいものです。

子供頃には戦争ごっこなどして遊び、正月にはどんど焼きの思い出が強い。小学校卒業後、苦しい家計ながら竜東農学校に通わせてくれた両親に感謝。昭和十七年に卒業し、当時の風潮であった満州での生活に憧れ満州へ渡った。しかし世の中甘くない。撫順で二月月教育を受け、ブドウ酒工場に配属される。普段は十五人ほどの従業員が原酒の管理等をしていたが、秋の山ブドウ収穫の時期には一挙に六十人ほどに増え、仕込みの仕事をした。ブドウ酒工場では関東軍の指図でフランク造りにも加わった。

このような生活の中で、将来の自分の事を考え始め、兵隊を志願し試験を受け、海軍整備員に合格。昭和二十年三月に知多半島の海軍航空隊に入隊した。当然飛



加藤東大院教授の基調講演を聴講する参加者

最後に、「盛日記の問いかけるもの」として、戦時下の重層的にはりめぐらさ

た支配体制のもとで、農村からの人的、物的な収奪を遂行するという誰も果たしえない政治課題が農村の政治家としての村長には要求されたのであり、そうした戦争の時代の「悲劇性」が『盛日記』には記されている。「戦後を遠く離れた」今日の時代状況のなかで、戦争の歴史を私たちが読みとり、伝えていくことが、平和創造につながっていく力になると提起しました。

パネルディスカッションは、山口大学の池田勇太さんをコーディネーターとして進めました。長野高校の小川幸司さんは『盛日記』を対象に世界的視野と結び付けて地域史を教材化する授業モデルを提案し、「太平洋戦争を盛はなぜ推進したのか」、「なぜ満州開拓を推進したのか」、「どのよう戦争責任と向きあったのか」という歴史的問題の問いかけを深め、過去に生きた人間の「いのち」の軌跡に向き合うことで、「問いの連鎖を」行えるような歴史意識を育む歴史教育の課題を提起しました。

豊丘村教育長の寺沢宜勝さんは胡桃澤家の近隣の旧橋本屋の生まれで、村落の人々の生活史が活写され、自然との関りが文学抒情に満ちた文章で叙述されています。『盛日記』の魅力を感じました。盛の末娘の胡桃澤

美智子さんは『盛日記』をとおして父親像を回想し、地域の人々の結びつきや、女性の視点から家族や子育てへの関心も語りました。フロアからは、地域の人口が減少し、「地方消滅ともいわれる時代の地域課題や安保関連法をめぐって、戦争の時代と同じ発想が再び繰り返されているのではな

いか」という意見。戦争に反対できなかったのは組織の論理にとらわれ、個人の立場から意見表明することができなかったからだが、現在は個人として考え行動できる人が地域の教育のなかで育っているかという心もとない、『盛日記』を読むこ

とで考えていきたいという意見。高校生は歴史をどのように学んで、考えているのかと、教育に地域の将来への希望をこめた意見などが出されました。まさに『日記』を我がこととして読む意見交流の場になりました。

刊行会の今後の活動は『盛日記』の販売事業のみとなりますが、飯田市歴史研究所の近現代史ゼミでは『盛日記』を読む企画を継続していきます。豊丘村の皆様の参加も期待したいと思います。

### 佐原地区敬老会

## 「冥土のみやげ」と喜んでもらう

佐原地区委員長 北澤 貢

当地区としては、以前はボランティアの会の皆さんが年に二回、お年寄りや独居の人達に昼食会を開いていただいております。近年できなくなくなり心配していたところ村の要請もあり、地区の委員会で検討し、取りあ



五十嵐まり子さんの歌謡ショー

えず一回やってみようと思いい、内容については他地区の様子を伺って参考にしながら計画を立てました。当日は、午前十時頃から集まっていたお茶を飲みながら開会式を待ちました。村長さんをはじめ三名の来賓の方に出席していただき、その後、指導員によりストレッチ運動を一時行ない、体をほぐしました。昼食会では、

お酒を飲み交わし、色んな話題に話がはずむ中で歌謡ショーが始まり、一緒に歌いながらなごやかな時を過ごしました。当地区の七十五歳以上の人は三十九名で、二十四名出席され、村の敬老会より多くの人の出席があり、ほっとしています。出席された皆さんには喜んでいただき、来年以降も続けていきたいと思っております。

退職後は、米、柿、野菜などを生計を立てている。一方、少しでも地域への恩返しができると思いい、頼まれ事は率先して引き受けてきた。今は、野菜作りなどで楽しい余生を送っている。車の運転もやめ、専ら息子夫婦に甘える日々である。この素直さが健康の秘訣と感じました。

文責 桐崎 長一  
日下部富次

## 人生決めた海軍入隊

シリーズ「元氣な高齢者」⑬

唐澤 忠良さん  
八十九歳

中平在住



大正十五年十二月二十四日生まれ、あと一日遅ければ昭和元年だった」と明るく言い放つ好々爺ぶりの厚い眉毛に時々目をやりながら、とうとうと話して下さる。生後間もなく母が亡くなり、母の妹が継母となり育ててくれた。継母には四人の子供がおりその兄として育つ。

戦後満州に残った人達はシベリアに送られて強制労働させられたり、惨殺されたり悲劇だったようだ。自分も海軍に志願しなければ現在の世にはいなかっただろうと話された。

昭和二十一年に復員し家の手伝いをする。後に、農林水産省長野食糧事務所勤務し、米麦、雑穀、甘藷、馬鈴薯等の検査をする。時代の変化に伴い米だけの検査になったが、その間県内各地を転動し三十七年間勤めた。



# 200名以上が参加

11月3日、堀越区民大運動会

第五分館長  
福島昭治

堀越では二年に一度、運動会と文化祭を交互にくり返す秋の最大イベントがあります。文化祭では公民館グループの舞台発表会、作品展、カラオケ大会を行います。今年は運動会の年で、九月六日を皮切りに打ち合わせや準備会を都合七回行いました。種目は前回と同じでしたが、少し中身を変え、自治会対抗リレーは人数的な事もありやめました。



小春日和に最高の盛り上がり

未満児から八十歳以上の人が参加できる種目でやりました。ご招待した村長さんと豊丘村駅伝チームの藤木浩之さんにも競技に参加して頂き、たいへん盛り上がりました。天気も最高に良く、風もなく、暖かくて最高の日でした。二百名以上の人が参加して楽しい運動会だったと思います。

豊丘村制施行六十周年記念事業の一環として十一月二十一日に絵本作家の、とよたかずひこさんの講演会とサイン会が行なわれ、村内外の親子連れで、にぎわいました。

下市場  
織田大原良子

私が初めてとよたさんの絵本に出会ったのは、息子が入院した時、息子の大好きな色使い、心地良いリズムに心を奪われ、それ以来、図書館でとよたさんの絵本をいろいろと借りていたりうちにファンになりました。そして、とよたかずひこさん

## ももんちゃんとおそぼう in とよおか



和やかな雰囲気の中で

が豊丘村に来る!!という事になり、とても驚きました。講演会は和やかな雰囲気の中、ご本人さんによる読み聞かせや、絵本ができるまで、誕生のきっかけなどを教えて下さり、大人も子供も楽しめました。サイン会では一人一人にイラストまで書いて下さり、家族についてのことや私の変わった苗字の事で盛り上がり、とても楽しくお話しさせて頂きました。

そして、温かく優しい人柄がそのまま絵本になっているのだと感じ、益々大ファンになりました。

## 池康山夜話

小沢万里

池康山とは泉龍院の山号です。泉龍院についてわたしの父から聞いた話を書きます。

### 一、屋根屋さんのこと

泉龍院の本堂の屋根は広くて大きいので、萱葺きのころの屋根の葺き替えはなかなか大事であった。

ある年、大勢の職人が集まって萱葺きの葺き替えを

しているうちに、一人の屋根屋さんが誤って、ころころとあねながら土の上へどつと落ちて気を失ってしまった。

「広い野原を歩いて行くと、大きな川べりに出会った。渡って行こうとする」と向こう岸に大勢のお坊さんがいて「来ちゃいかん、来ちゃいかん」と手を振って大きな声でいう。それでも行きたいので、また渡りかけると大勢のお坊さんが手を振って「来ちゃいかん、来ちゃいかん」と怒鳴るので、行くことをあきらめて戻りかけたが目が明いたという。

二、名犬「八子」  
一つの頃か、泉龍院では一匹の犬を飼っていた。名前を八子という。住職は殊のほか可愛がって本山の大洞院に行くときはいつも連れて行った。大洞院は静岡県の森町にあるので、幾晩

も泊まって幾山坂を越えていかねばならなかった。ある晩、泉龍院で火を出し火事になった。荒れ狂う火は堂塔を焼き払った。このことを本山に知らせなければならぬ人がいない。住職は意を決して委細を手紙に認め、八子の首に結びつけて本山へ急使に送った。

八子は住職と一緒に歩いた道を覚えており、宿屋も知っていた。宿屋でも犬を覚えており、泊めてやり明らか旅立させてやった。かくて無事、本山に到着して使いを果した。本山は救援の僧を泉龍院に派遣したという。

三、大きな音  
泉龍院は浪級学校という学校になったことがある。明治初年である。それ以前にも村の若者は夜、本堂に集まって和尚から話を聞いた

り、漢文の本を習った。ある晩、いつものように若者が集まって勉強していると突然、ドシンと大きな音が出た。果たして山分山間地)からお葬式依頼の使いが来たという。昔から人が死ぬと大きな音が出て、本堂の入り口の大きな木の戸が少し開いているという。それは檀家の人が死ぬと、その魂がお寺へとんでくるためだという。

## こちら資料館 159 【拡大版】 獅子舞展

「村制六〇周年記念行事」の一環として開催した資料館特別展「村内神社獅子舞展」にはたくさんの方にご来場いただきまして誠に有り難うございました。

六日間という短い期間でしたが、参観者の延べ人数は三百名近くになりました。その中にはリングの収穫に来た県外オーナーの方もいて、伊那谷独自の伝統芸能について地元だけでなく広く他県の方にも知っていただく機会になりました。

また、展覧会終盤に行われた飯田美博の櫻井弘人先生の講演会では、この地方で独自の発展をとげた大型獅子の歴史やその民俗芸能としての価値について分かり易いお話を聞くことができました。特に、大型獅子の歴史やルーツ、村内各神社の獅子舞の系統等、今まで漠然としていた事柄を整理して説明していただき、かなりスッキリした気がし

ます。参加者は五〇名ほどでしたが、実際に獅子舞に関わっている人が多く、今後の活動の力になるよいお話だったと思います。さて、今回の特別展を計画した動機と意図は次のようなものでした。

昨年獅子バスや河野の獅子舞の国民文化祭出演等、何かと獅子舞が話題となりましたが、お祭りの日程の関係で、自分の神社以外の獅子舞を見たことがないのが実情と思われま

り自分も是非やってみたいと思う若者が一人でも増えたら更にはいいのではないかと、獅子舞を行なっていない二神社についてはお獅子の展示をお願いしました。

実際、準備段階で各神社の獅子舞について調べてみると、記録に残っていないことが多く大変苦労しました。

幸いなことに期間を通して参観の皆様から新たな情報や感想をたくさん寄せていただきました。貴重な資料として記録に残していきたいと思

最後に、今回の特別展にご協力いただいた全ての皆様に改めて感謝申し上げます。有り難うございました。 (追伸)獅子舞・お獅子に関する情報は今後とも随時受け付けます。気軽に資料館までお寄せ下さい。 (資料館主任 唐澤武彦)



村の文化財・泉龍院の山門



第四十五回夜間ソフトボール大会

十八チームが熱戦を展開

次年度も二連覇目指す

「いくに会」中芝 郷原広達

「いくに会」は今年、十五勝二敗一分という成績で、豊リーグで久々に優勝を飾ることができました。

例年は、操法大会の練習で選手が足りない時期に負けてしまい、豊リーグの三位、六位が定位置でした。

チーム「オール南」との対戦は、自分の中で一番印象に残った対戦となりました。

来年は、前年度覇者として追われる立場となりますが、「いくに会」の結束をさらに強め、二連覇を目指して頑張りたいと思います!

豊丘の自然

～シリーズ～ No.146

ヤブヤンマ (ヤンマ科)



写真提供: 大田秀子氏

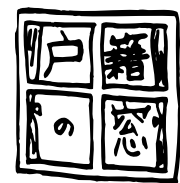
こんな事が今までにあったらどうか。十二月十一日の新聞を見て、そう思った。野坂昭如さんの死去を伝える一面の記事。そして、コラム。朝日、信毎、読売、中日でもしかと思つて、コンビニで買った毎日、産経も同じだった。

ボ、オジロサナエ、そして、長野初のスナサナエの発見と、トンボ三昧の年だった。でも、今月はヤブヤンマのちよつと不思議な生態を紹介する。平成二十四年、二十七年の四年間で十個体を採集したが、その内の五個体は、座光寺小の校長室、高森北小の理科室、松川の障害者施設の食堂、そして、写真をお借りした大田さんの家のトイレで。

お詫びと訂正 前号3面「とよおか100年前②」の記事に一部誤りがございました。



出生 子氏名 届出人 自治会 前野 焯介 強 柿外土 佐藤 陽太 貴広 地蔵道



婚姻 小澤 正寛 喬木村 宮下 幸子 城 具原 友幸 寺垣外 市岡 春菜 喬木村

柳 (豊丘川柳クラブ豊柳会) 講座 「種」久保ひろし 選 種子島昔鉄砲今口ケツト 吉川 燎

第六十四回長野県縦断駅伝競争 飯伊チーム総合二位入賞

飯伊主将 滝川 松村健一

長野県縦断駅伝は長野市から飯田市までの二七・六kmの道程を二日間に分けて、県内十五地域の精鋭二十二人がタスキを繋いで走る、第六十四回を数える歴史の古い大会です。

チームは中学生から一般までの構成で、一般選手は毎週水曜日に松尾グラウンドで合同練習を行っています。



両リーグ入賞チームと順位

今年は優勝を目指しましたが、緊張してしまつたのか一日目の選手は力を出し切れませんでした。

来年も優勝を目指して頑張ります。

俳句 短歌

赤楽の匂ふ野点や石路日和 磯部セツ子 子等と訪ふ寺も社も落葉霏々 田中 静

八日会 伝統ありし速玉神社の秋祭若き娘等明るくフラダンス踊る 伝 岳 祝宴に豊丘太鼓勇壮に二人の前途を華やきくるる 紅 梅